

刊夕日六廿月二十

常磐每日新聞

定額 一紙五錢 一月一元五角 三月四元 半年八元 一年十五元
 廣告料 五號十二字 第一行 五錢 五號 一行 五錢 五號 一行 五錢
 日曜 祭日 休刊
 發行所 常磐每日新聞社 常磐毎日新聞株式會社
 印刷所 常磐毎日新聞株式會社

他土得證

眞繼 雲山

悟りとは迷ひを拂ふことであり、迷ひを拂ふとは實相を徹見することである。迷悟共にこれを離れた玄底が實のすがたである。その實相を徹見すること。左ほどの難事業ではない。色即是空を知つてもよい。六大無碍を觀じてよい。凡慮の念想を拂ひ得ば眼前ことごとく實相ならぬものはない。その意味において悟つてゐた人は昔にも多く現代人にも決して少きを憂へぬであらう。

しかし佛敎では、然うした机上の分別を悟りとは言はない。強いてそれを悟りとなすべくは、それは學問としての戲論であり、學問は宗教ではなき故、それは單なる哲學に過ぎない。眞實の悟りとは觀察ではなくして行である。認識ではなくして訓練である。苦しみ抜いた揚句腹を斷ち割らねば自分の子は生れないやうに眞實の悟りは行によつてのみ生れる。

自ら悟つたのみでは覺者とはいはない、その悟りを實行するものを佛陀と申すのである。この故に悠々と殿堂の奥に高枕安臥して名譽を追ひ、お布施を計算しつゝ如何に一切皆空を悟つたからとて、それは骨蒸いぢりに等しい佛敎的遊戯に過ぎない。如何に講壇に立つて聽衆を感服させてみても名利の奴たるべくば、それは祖師の受賣的蓄音器に外ならぬ。現代佛敎が時人を救済し能はぬ所以は職として茲に存す。

火事場

平第三校尋四

平野井 珪造

かとかのけんくわ
 火事と風だ
 どつちも わるい

みの字が通る
 水さんがいつた
 けんくわはわるい

斯く申す拙者も自らその遊戯者に墮せざらんことを常に念願してゐるのであるが、肉身具足の悲しさには未だ眞の丸はだかとなつて街頭に立つまでには到らぬ寧ろ世事を放下して山中に隠棲しやう杯と考へてゐること何とも申し譯がないそこに凡人の弱みがあり、それが一切人の惱みでもある、他力救済の淨土門はこゝから生れる。煩惱具足の身にて、さとりを救済のと如何に立派なことを言ふて

美味!

芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
 電話一〇番

木村科醫院

平町五丁目橋際
 電話三〇九

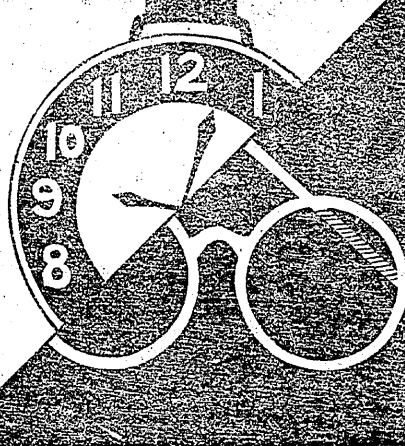
内科 一般

醫學博士 難波 陸

電話五〇二番

平町新川端(釜屋)住宅向

正確な時計



平一常盤屋時計店

お客様本位の...

好適の眼鏡

景品付歳末大賣出し

●●● 廿八日マデ ●●●

モリタヤ洋品店

平五丁目電353

喪中に付歳末年始欠禮可仕候

平町城山杉平四ノ一

小野房吉

當地方に於ける

タクシー界のナンバーワン

最高級車プリアムス號増車致しました
 何卒御用命の程御願ひ致します

電話三九五番

セリザワタクシー

立派な寫眞が誰にも撮れる!!!

お正月の樂しみは何と云つても

カメラが第一

安くて簡單によく寫るので大評判!

いづみやの小型カメラ

小型判 一組五十錢より

ベスト判 同 一圓五十錢より

名刺判 同 四圓より

回只今最新型カメラ洋山入荷!

函型カメラの大特賣

一圓五十錢のカメラが 一圓五十錢

二圓のカメラが 一圓五十錢

二圓五十錢のカメラが 一圓八十錢

ジャバラ式カメラの大流行の爲函型カメラを在庫

品全部大特賣致します、賣れ切れぬ中御早

函型カメラの(ジバラ式より耐久力三倍以上

特長)ピントは合せる世話が無く誰にも完

全に撮れる事修繕も簡單に出来る事

第四回懸賞寫眞募集

題「お正月」

〆切一月二十日

模型飛行機材料はいづみや玩具店

吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八番

先づ曲なりにも

越年は出来るかと樂觀

本年も大團圓に近づいて

商店街は色旗のトンネル

歳末の平町

カレンダールも愈々薄くなつて昭和六年も大團圓に近づいた。平町の商店街本町通りは歳末賣出に

大忙しさを演じ紅白とりくの大旗小旗で宛然旗のトンネルを作り満艦飾の装ひに客の吸収につとめて居る。犬養景氣が影響して沈衰し切つた財界も

心持丈は跳ね返つた様だが何しろ濱口さんからの消費節約、何でもかでも緊縮だと云ふ宣傳が藥が効き過ぎてか、餘りバツとしない模様でこぼして居る店も尠くない、然し景氣が幾分

上調子の爲めか谷口住吉屋本店、末廣、大貞、尼子亭等料理店の話によると忘年宴會も非々あり、去年の暮よりも人氣が好いと喜んで居り

氣早な向では既に新年會を申込んで来た由で先づ曲なりにも越年は出来るかと案外樂な觀測をして居る

平役場の急告 平町出身者で徴兵適齡前に師範學校を卒業し未だ小學教員

にならぬ者で明年二月短期現役兵として徴兵検査を受ける者は至急町役場に申込まれ度いと

慰問金の

半額を保管

遺族の慰問に

昨日平町各團體協議、既報—平青年團並に各公共

上水道擴張工事

辛ふじて年内に

鐵管製作器の破損に依る

一時は當局大狼狽

支障を免れたと

平町上水道擴張工事に使用する鐵管直管異形管及び付属品等の製作を一手に引受けて居た埼玉縣川口町の永頼鐵工所は十月三日作業中突然熔解炉が破損し製作不能に陥つた爲め十二月六日迄製品の發送延期方を平町に願出で來つた爲め平水道部では工事進行上非常な手違ひを來し狼狽中の處其後間もなく鐵工所の熔解炉の改修成り年内打切りの諸工事に間に合ふ様大製作を行つたので辛ふじて

石城郡出身 平町各種 身在滿兵 團體募集

慰問金品

本日現在

- 入橋小路坂 (壹圓) 鈴木康 鈴木長三郎 齊藤時次 中川完一 大井勇 阿部小佐 吉田金作 吉田利吉 鍋田三重 (八十錢) 山野正男 (五十錢) 沼又吉 須田 上田猛 男 渡邊權次郎 野矢次

- 橋本文壽 和田庄作 本庄吉助 門馬駿一郎 大塚保 山森鐵吉 佐々國勇 吉田一誠 日野良太郎 吉田四郎 齊藤貞信 國井謙藏 板倉茂次 神長倉金造 本多朝忠 新妻善原 小野安三郎 引地淳四郎 坂本哲夫 袴塚豊治 小野榮一 加藤實吉 佐藤熊太郎 新田繁 松浦章幸 原信之 渡邊友吉 (三十錢) 中島登記 松井深 根本金定 志村一作 吉田安 三戸修 桑名小新吾 和田勝己 (二十錢) 佐藤丑吉 紺野勝治 遠藤七郎平 大谷留彌 木村竹次郎 吉田政吉 野崎春雄 佐々木清次 鈴木左司平 本田宗秋 林誠一 (十錢) 益子千秋 本多隣太郎 長澤貞吉 先崎ナツ 齊藤進 (防寒用帽子十二ヶ) 渡邊千賀

- 馬目平三郎 橋本政績 風間孝榮 丹野慶次郎 鶴沼五郎 鈴木英吉 大内吉太郎 久保田福次郎 松崎藤興 上野徳太郎 白土正志 生田目勝春 上下伊之吉 江尻カネ 鈴木キクヨ 鈴木四郎太 高野三郎助 平澤傳吉 國井勝榮 野澤鐵一郎 鈴木市三 圓野好三郎 (二十錢) 佐々木松助 高萩馨 小林タヨ 千葉六郎 伊藤退之助 國井計左松 小木彦治 林秀壽 須賀川醬油株式會社平販賣店 武田周吉 鈴木辰藏 阿部英次郎 吉田常

社告

明日より新年初刷號の準備に着手の爲め本日をもって本年の終刊號と致しますから御諒承願上ます 尤も休刊中の突發事件等は號外を以つて速報致します 十二月廿六日

常磐毎日新聞社

- 堀越梅吉 佐藤クニ 馬目末藏 永井維治 木村久作 高萩現次郎 野木源吾 小野得之助 佐藤久治 (キヤラメル百個) 薄葉己之松 (石鹼二ヶ) 河田造酒太郎 (バット七個) 野本龜吉
- 鎌田坂 (壹圓五十錢) 草野七五三之助 岡田千藏 (壹圓) 金成忠義 金成國雅 根本忠吉 猪狩

- 長谷川徳代 檜山謙 阿部治作 平野井子之松 谷平治一 (五十錢) 鈴木定一 吉村爲吉 武子國太郎 大澤喜宗太 平澤政衛 小野トラ 齊藤宇平 鈴木光吉 (三十錢) 鯨岡金太郎 五十嵐金治 猪狩勇吉 菊地兵衛 根本毅一 荒川光夫 猪狩野伊重 影山定之助 鹽庄造 佐藤岩次郎 鐵道鐵藏 (二十五錢) 高木保次郎 (二十錢) 大島吉三郎 藁谷萬次郎 鈴木賢二郎 白土助次郎 居島吉太郎 青木捨吉 小野寅之助 望月卓治 松崎新三郎 渡邊善四郎 金澤星 久松清吉 川崎忠策 佐藏幸次郎 鹿島要助 高澤兵治太 荒木勝彦 横山榮太郎 吉村寅三 仲本彌七 中村子之吉 鈴木伊太郎 吉田諄 山崎信義 鈴木傳吉 永山吉藏 木村徳藏 吉田一二 阿部三省 齊藤運藏 箭内芳秀 入江秀吉 鯨岡慶藏 片寄仙太郎 小林安太郎 青木信治 高橋武士 後藤梶三郎 渡邊濱吉 今野甚一郎 齊藤博 鎌田喜右工門 高橋與平 鈴木留吉 小野崎子之吉 猪狩政義 小林武吉 高具亥之吉 (十五錢) 伊藤辰之助 菅野勘助 鈴木守彌 (十錢) 松崎八郎 鈴木義 松崎鶴松 三澤寅之助 飯村定雄 佐藤象五郎 鷺甚四郎 村上清 吉村重之 渡

- 本増藏 高岡寅十郎 佐藤惣吉郎 高橋又四郎 大槻喜代治 古川直一 木田満昌 平林末吉 寺門捨吉郎 遠藤清 鶴沼武 大山静 矢吹福松 鈴木光治 志賀芳太郎 坂井茂 佐藤善藏 藤田善藏 箭内善兵衛 新井淺右工門 鈴木トメ 荒川安造丸 山徳吉郎 荒木忠吾 清野久市 木村勝彌 佐藤清藏 志賀朝吉 佐久間勇吉 郎戸井田七吉 木田常次郎 金澤榮吉郎 福本仙吉 坂本吉彦 杉山坐吉 古澤與四次 酒井龍之進 山崎春吉 土佐兼吉 大谷濱次郎 上杉助格 熊谷吉三郎 佐藤金吾 小泉三郎 安戸丑吉 大槻助辰之助 菅野正 富部象之助 (真綿二十枚) 鈴木敬一 (石鹼三ヶ) 荒川吉祐 (禪十本、メリヤス上下一枚) 松永精 (真綿三十五枚) 大木近松 (禪五本) 兼野フジ

往來

△櫻村平署長 本日午前十一時半發列車にて福島へ

平町人

- △正月町四 松本憲治氏六男孝一
- △田町三九 當時郡山市虎丸町百八十九渡邊軍平氏長男威夫
- △久保町六 川島道利氏三男敏夫

洋装の萬引婦人

▽幼女を誘拐して 販品を賣り歩く

石城郡小名濱町宇古港地内を廿四日午後九時頃洋装廿五才位の婦人が十才位の女の子を連れ化粧品を賣歩いて居るのを駐在所巡査が怪み取調ると女は宮城縣白石町宇白石生れ住所不定、菊地勝枝(三)と云ひ九月頃小名濱に流込んだ際同町米田倉吉長女トモ(五)を言葉巧みに誘拐し東京方面に連行し賣飛さんとしたが失敗して以來

各地の大商店で化粧品類の万引を働かせる

品類の万引を働かせるの品はトモ子に持たして町を賣歩いて居たものであるが同日湯本より小名濱に入り一働かせんとしたのを取押へられたもので廿五日平署に押送取調の上取敢えずトモ子の實父倉吉を呼出してトモ子を引渡し引續き平湯本等の万引された被害商店を目下取調中である

「地には穩やか 人には恵みあれ」

クリスマスに節約し 北海道青森縣等の凶作地へ

平町の日本基督教會及びバプテスト教會にては昨日夫々クリスマス会を催し「地には穩やか人には恵みあれ」の聲に滿ち非常な賑ひを呈したが兩教會共に贈り物其他の經費を節約し參會者の献金を北海道青森縣等の飢饉地に於ける兒童救濟資金の一部として寄附する事になつた

出征嘆願

兩勇士から

石城郡夏井村豫備歩兵上等

大浦青年協議 石城郡大浦村青年團は廿七日午前十時より同村小學校に於いて役員會を開き新年宴會及び本年度諸事業の報告其他に就いて協議すると

無免許馬賣買 石城郡入遠野村字根本山田吉次郎(五)は上遠野村駒羅商大方吉次外三名より馬五頭を購入無免許にて川前村桶賣佐藤連次郎外一名に轉賣した事發覺平署にて取調中

中村からマラソン 元日に東京入

相馬中學の四年生二名 けふ元氣で平町を通過

縣立相馬中學校陸上競技部員である同校四年生遠藤毅阿部信雄の兩君は東京中村間の長距離マラソンを決定すべく廿四日午前八時母校を出發、昨廿五日は双葉郡久之濱に一泊、今朝八時半町に入り平署内で暖を取り同九時元氣に出發したが遅くも元日迄には東京入りを行ふ豫定であると

平第三童話會 平第三小學校では本日午前十時

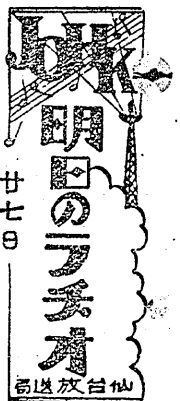
から低學年及び高學年の二組に分けて童話會を開いたが番組左の如くである

(低學年)開會の挨拶野木首席 豚のへそ若松先生 クリスマス八代先生 お猿さん新築先生 其他遊戯 (高學年)開會の挨拶赤津校長 四ツ目の三郎石田先生 おはなし鈴木先生 ロンドン市町になつた話 林先生 クリスマス花澤先生 其他遊戯

大金を抱いて 不安の餘り家出

吳服屋の病弱青年

本日平署へ相馬原町署より同町南新山金井秋治郎(三)と云ふ青年が廿四日年末大賣出しの資金を懐中にした儘行衛を晦したとて捜査方を通知して來たが同人は昨



報豫氣天

今晚も明日も北西の風晴れたり曇つたり

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 理科童話劇「白い石炭」奈良童話劇研究會
後六、三〇 講演「天然記念物として指定されたる秋田犬」小野進
後七、三〇 滿蒙事情特別講座大「平洋會議に現れたる滿蒙問題」法農學博士新渡邊稻造
後八、〇〇 放送舞臺劇「あゝ明治廿七年」森操其

明日の部

後八、三〇 落語劇「お米万作豊年ムーン」柳家金語樓其他
後九、〇五 映畫劇「茶冠涙あり」鈴木明其他
後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報

平脚業紹介所報告

求人部
砂利採取人 六十以下日給六十錢以上 特に夫婦者を望長家の設備有 (好問村某請負)
風呂番 五十以下 住込月給五圓位 (江名町某風呂屋)
女中 十五より廿才迄 住込給五圓位 (白銀町某下宿屋)
求職の部
馬車輓 卅二才 尋卒 給料面談 (飯野村某)
商店配達 卅才 高卒 西洋洗濯に経験有 給料面談 (杉平の某)
事務員 卅三才 高卒 (神谷村某)

出征兵の 家族に金百圓

飯野村から贈呈

石城郡飯野村では在滿兵の慰問金に既に全村民から寄附を募集したが更に出征兵の家族を慰問すべく廿五日區長會を小學校に開き出征兵家族に全村より百圓位の寄附を贈る事になり直に募集を開始した

登校途中の幼児を 自轉車が轢き逃げ

平第一小學校二年生渡邊充

(九)は廿四日七時半頃登校の際登壇小路地内で突然自轉車に轢倒され頭部右足等に全治二週間の負傷を受けたが自轉車の男は不埒にも其儘逃走したので平署では目下犯人の行衛調査中である

東京市本郷駒込追分町 (茶代不用) 上野驛ヨリ (自動車約二分 電車約十五分)

録馬込館

一泊金一圓八十錢 (但シ二食附)

電話(小石川)三一六五番 (但シ二食附)

小説
七面鳥
(百十九)
【載轉禁】

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

怪しの手紙 (5)
『なに、密書その密書を盗み出したのか、いや、そいつあまいぞ。此の爺さん隅には置けないや、今に警視廳の捜査課から抱へに来るかも知れないぞ豪らゝい凄腕だぞ豪らゝい』
『イヤ、旦那、そんなに煽て上げてはな〜俺アは其の煽にや乗りたくねえ、ところが闇の夜の手習をした悲しさだ、婆さんと二人でもつてその手紙を真ん中にあゝだこうだと評議はしたものの、一体全体あき盲目同然、何を書いてあるのかさつぱり二人共同じやうに俺達の目に見常がつかねえのでがす、紙に書いた字々では金魚に遣るよな譯にもいかねえでな全くのことこいつにや困つたんだよ』
『その手紙はそうしてどうした、どこえ遣つた』
『何に此處に待つてゐるだか……』
『ぢや早く出せ』
爺さんがゴソリゴソリ腹掛のなかを捜してゐるうちに、鴉天狗は其家から懐中電燈を取出してパツと点火させそれと引換へにその手紙を受取つた。
見ると桃色の角封筒で、



差出入の名は歐文でニチトリベと認めてあつた。用箋は緑の透かし模様のある紙で見ると妖かしく披くと芬とローズの匂がほめいていた。
『はア、こりや男の手だなたしかに男から寄こしたの』
直ぐと電燈をさし向けて手許を覗き込んだ。
その手紙には次のやうなことが書いてあつた。
仰越され候趣委細承知仕り候本日外務省より旅行免状の下附を受け申候、明日にも領事のサインを得る手續さいたすべきに付さまづ〜御安心下さり度猶其事について色々御打合せ申上度儀御座候に付き恐縮ながら今夕九時例の社前まで御運び願上候委細拜顔の上草々不
鳥部 花子

だ、成程讀めたぞ爺や安心して呉れ』
『然うかね、ぢやア解せたかな、書き手は男だて、成程こいつあ一寸面白く成つて来たんだんべい、而して何んと書いてあるのかな……』
爺さんは急に勢ひ出て

何處か遠い外國へ旅行でもするやうな文意で旅行免状が下りたとか下りぬとか書いてあるが是れだけぢやあ一寸何の役にも立ちやあしない』
『ホウ役に立たねえかな』
儀平爺さんはつまらなさうな顔をした。
『情夫から来た艶書かなんかなら占めたもんだが……』
『む、お前さまを青物づくしで褒ようなら、目許はほんのり生委の葱一、眉毛はちままの隠元胡豆、齒は一粒えりの播州米、生木耳の耳の傍から伊勢鹿菜より艶のいゝ愛嬌毛がちらりと下り羊の皮を剥いたやうにノツペリとしたお顔だせ、そのくせ色が白瓜で人に胡瓜を揉せまますなんてね、エハ、ハ、ハ、』

御用命は印刷物の
常磐日印刷株式會社
電話三六〇番

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南町 電話一七〇

均一大賣出
店頭十錢均一の山
是非御來店を……
電二一四番

營業所開設
倍舊の御引立相仰ぎ度奉懇願候
芳醇銘酒
白馬の雪營業所
平町二丁目一
辰ノ口本家 松本徳一
電話 五四六 管業所 二八五 本店

玉屋洋品店
平町通電話五六六番

鳥肉界の王
七面鳥 (百及七〇錢)
肉は軟くして美味……
例年の通り本日より賣初めました
多少に不拘是非御用命下さい
平町町搔植小跡
配達迅速
鈴木鳥肉店
電六五四番

大塚の 學生靴!!!
耐久新製品
編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……
大塚支店製靴部
電話七七番

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番